

起業しました！

起業家大学修了生を訪ねて

電気工事の エキスパート目指し 社員と共に前進

一流企業からの転身——周りから見れば「ずいぶん思い切ったことを…」と思われがちだが、自らの思いを貫き通し、現在着実に事業を伸ばしている人が盛岡市にいます。それがいわて起業家大学を修了した株式会社電創総合サービスの齋藤明彦社長だ。

今回は齋藤社長に、起業のきっかけから事業内容、未来への展望をうかがった。

電気工事を主体に起業

株式会社電創総合サービスの創立は、平成11年12月。事業内容は東北電力から受注する架空配電線と一般家庭・ビル・工場などの電気設備工事、各種通信工事、街路をはじめとした照明設備工事、建設現場の配電線防護工事、配電線路などに接近する樹木の伐採工事、また、太陽光発電・風力発電設備に代表される新エネルギー関連工事の施工と技術開発など多岐に渡る。

社長である齋藤明彦さんが起業を決めたのは、起業から3年以上前の平成8年。東北電力から転職を決意したときだった。「30歳ぐらいから、漠然と起業に対する思いはありましたが、本気で考えたのは平成8年に他の企業から声をかけていただいたときです。東北電力とおつき合いのある会社でしたが、2週間考えて決断しました。そこで創業に関する知識を習得するために平成10年に起業家大学に入学したんです。」

周辺からは引き留める声が多かった。「今のままでいいじゃないか」、「失敗したらどうするんだ」——心配する仲間に見送られ、齋藤社長は退社した。そこで決心した理由は何なのだろう。

「…一口ではとても言えないさまざまなことがありました。例えば以前の職場は

株式会社電創総合サービス・齋藤明彦社長。東北電力時代には配電など電気工事全般を学ぶ東北電力学園で講師を務めていたこともあるという。

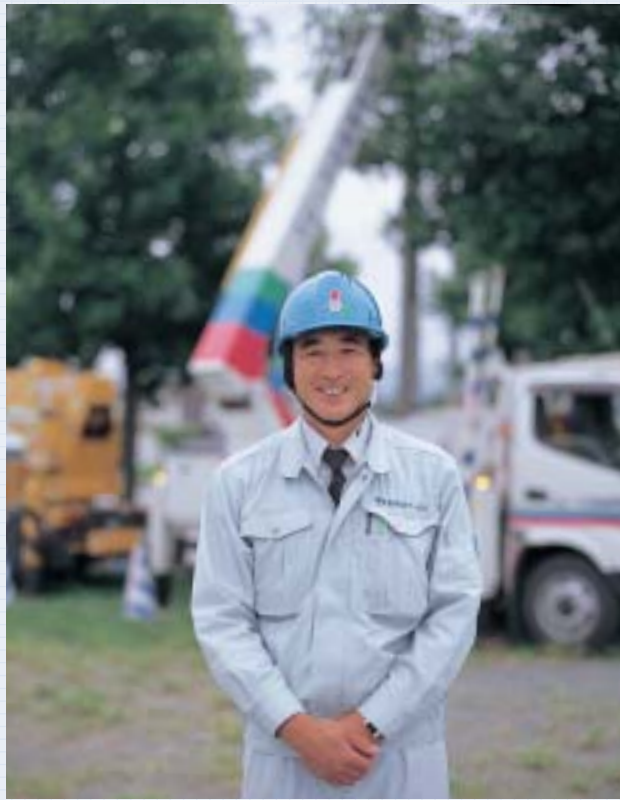
単身赴任の連続が当たり前でした。仕事なのだからと割り切っていた部分もあるのですが、家族と離れて暮らすというのは実に寂しいものです。特に両親の死に目にあえなかったことは、今でも後悔として残っています。」

一企業マンとして熱心に取り組んできた反面、それにより生じてきた問題も軽視はできない。

しかし、齋藤社長が起業に踏み切ったのは、それ以上に自らの考えていたことを実践したいという情熱によるものだった。

「電力に関する工事には、安全管理、品質管理が求められます。しかも、皆さんの生活に直結している工事ですから、基準も非常に厳しいし、指導も細やかに行われます。私自身は、東北電力で配電工事の設計をはじめ、発注・指導を行っていましたから、そうした現場を見ていてより良い方法で受注できるのではないかと感じていました。」

転職した齋藤社長は、現場で実践を学びながらビジネスプランを作り始めた。その時偶然知ったのがいわて起業家大学だった。



心の柱を見つけた起業家大学

「今でも印象に残っているのは、起業家としての精神的な部分の大事さについてです。」

起業家を志す人が集まるいわて起業家大学では、起業に関するビジネスプランの作成・点検を行いながら、より精度の高いものに仕上げていく。

齋藤さんにとって、ビジネスプランの練り込み以上に、精神的な部分での教えが印象深いという。

「福島先生から言われたことで、今でも覚えているのは『あきらめない限り、人生に失敗はない』ということです。逆にいえば一度や二度の失敗でくじけていては、企業を維持していくことなどできないということですよ。この言葉のおかげで自分自身の心に柱ができたという気がします。」

一緒に学んだ仲間とは今でも交流があるという。場所や職種が違っても、絶えることがない情熱——これは起業を目指す人たちの共通意識なのだろう。

「ただ、最近は忙しくなってしまって集まりに顔を出すことも少なくなってしまいましたが…。」

齋藤社長の顔に苦笑が浮かんだ。

教育を充実させ組織強化

起業して以来、順調に見える電創総合サービスだが、その秘密はどこにあるのだろう。

「順調なんてとんでもない。いつも必死ですよ。ただ、気をつけていることは社員教育という部分です。技術はもちろんのこと、人間的にも外に出ていって恥ずかしくない人づくりを目指しています。よく言うんですが、ここを辞めてどこに移っても、『あそこ人間は使える』と言われるような社員教育をしていきたいですね。」

その実践の一つが、資格取得の会社からのバックアップだ。「何でもできる電気工事業」を目標にしている電創総合サービスならではの取り組みであり、逆にいえば免許がなければ受注できない工事もあるからだ。

「企業の中には『自分自身のステップアップなのだから、自らに投資せよ』ということで、資格は自費で取らせる企業もあります。私自身も若い頃にはそのつもりで取った資格もありました。しかし、現在の規模でそれを行ったのでは、仕事に対して人材が育つスピードが追いつかないのです。しかも、若い頃というのはお金がないというのが、いつの時代でも共通ですから。」

さらに、齋藤社長は一般的に言われる「不良少年」たちにも温かい目を向ける。「多くの人たちが『ワル』を良くないに



工事を終えた社員の皆さんと。この日は盛岡市内の架空配電線取り替えおよび点検工事だった。



工事に関する確認事項は驚くほど多い。前後に綿密なチェックが行われる。

とと、とらえがちです。しかし、さまざまな経験をしてきただけに、人の優しさ、恩義、仕事の大事さを認識しているのも事実なんです。最初はあいさつさえもできなかった人間が、数年後にしっかりと責任感を持って現場を仕切っているという姿を何人も見ています。切り捨てるのではなく、一緒に作り上げる喜びを社員と共有していますね。」

こうした企業姿勢を知り、入社を希望するアポイントが多い。そうしたとき、齋藤社長は「真っ白な人材になれる人」を採用のポイントにするという。

「誰もが自分の知識を持っていることは知っています。だからといって『前の職場ではこうだった』、『前に教わったことと違う』と言い出したら工事もうまくいきません。その職場のやり方を素直に聞き、新たなキャンパスに絵を描ける人間がいいでしょうね。」

さらに高度な組織を目指し

多彩な資格を持ち、チームワークの良さを発揮する電創総合サービスでは、今年からロードヒーティング工事も手がけるようになった。

「多種多様な要望にお応えするためにそうした工事也开始しました。多くの電気・配電工事企業は屋内専門、屋外専門というように分野を持っています。その点、当社は屋内外を始め特殊な工事にも対応できます。出入りしている重機メーカーさんによると、この規模と歴史でそうした

企業は東北で当社だけだと言われました。」

しかし、齋藤社長の目標はさらに先をにらんでいる。ISO9001の取得を来年に予定し、さらには国際コンソーシアムにより作成された労働衛生安全マネジメントシステムの規格であるOHSAS(オーサス)18001も取得したいと考えている。

あくなき挑戦——常套句ではあるがこの言葉がすぐに浮かぶほどのバイタリティである。しかし、齋藤社長は首を振りながら語る。

「たぶん私が思っていることをすべて成し遂げることはできないでしょう。『道半ばにして…』という結果になると思っています。ですが、それは問題ではないのです。それを引き継ぐ人たちにどうバトンを渡せるかが問題なのです。」

可能性の実現を目指す齋藤社長に、起業家を目指す方々へのメッセージを最後にうかがった。

「お金というものを追求しようとしてはダメだと思います。もちろん企業ですからお金は大事です。しかし、それを大事にするあまり、人をないがしろにしては長続きしないと思うのです。大げさに言えば何のために生まれてきたのか——そのことを考えながら、世の中にお金以外のことを伝えていく意志を大事にしていれば、きっと良い結果が出てくると思います。」



会社名 株式会社電創総合サービス
住所 盛岡市上厨川前湯128-6
TEL 019-648-8205・3200
FAX 019-648-3201
URL <http://www.denso-sogos.co.jp/>
E-mail denso1@nnet.ne.jp
代表 齋藤 明彦
業種 電気工事関係
太田テクニカルセンター(業務拠点・従業員常置場所)
住所 盛岡市上太田字盛合30-1
TEL 019-648-8206
FAX 019-648-8258

お問い合わせ先 新事業支援課 TEL 019-621-5070 FAX 019-621-5481
URL <http://www.joho-iwate.or.jp/info/sogyo> E-mail joho@joho-iwate.or.jp
齋藤さんが受講した「いわて起業家大学」の15年度のコースは、現在申し込み受付中です。